

# 仏語圏の漫画に触れて

## 茨城大生運営の企画展

フランス語圏の漫画の世界を知ってもらおうと、水戸市文京2丁目の茨城大図書館で14日から2月2日まで、企画展「バンド・デシネ作家が贈るアート展ーフランスから届いた色と表情」が開かれる。企画から運営までを担うのは同大文学部人文コミュニケーション学科の学生たち。若手作家3人の作品を取り上げ、日本の漫画とは異なる独特の色使いや作風を紹介する。

バンド・デシネ(BD)は、フランス語圏の漫画の総称。日本でも愛好者があり、近年は出版される作品も増えている。

同展を主導するのは、同学科の専門科目「視覚表現論」を受講する学生15人。企画、運営、広報までを分担する。企画・広報担当の同学科3年、和田翔太さん(21)は「作品を見ながら、どんなコンセプトで伝えるか、みんなで話し合ってきた。一人でも多くの人にBDを知ってもらいたい」と期待を込める。

授業をきっかけにBDの世界に触れた学生が多く、後藤美咲さん(21)は「日本の漫画とは全く違う。こまやせりぶが少なく、せりぶでストーリーを説明するよな感じが無い」。伊藤楓さん(21)は「日本の漫画と比べ、作家の個性が強く出ているのが特徴で、魅力」と指摘する。

今回は、BDの世界で活躍する30代の作家3人に特化して紹介。複製原画や商品パッケージの現物計40点

## 14日から水戸 独特の色使い、作風紹介

を展示する。

同科目担当の猪俣紀子准教授が漫画の博物館「京都国際マンガミュージアム」(京都市)の研究員だったこともあり、展示会開催のノウハウを学びながらの作業になった。

設営担当の榎本七海さん(20)は「作品のサイズを測って図面を描いたり、貴重な体験になった。空間デザ

インの勉強もして、企画書を見ながら、どう具体的に展示するかも考えた」と力を込める。

広く学生に会場を呼び掛けるため、ツイッターやブログでも準備状況を発信。和田さんは「メディアを使って情報を発信する難しさや面白みも感じている」と話す。

同展は平日は午前10時～午後6時。土、日曜は午前11時～午後5時。同大学生以外の来場も可能。27日には学生によるギャラリートークも予定されている。

(平野有紀)



自分たちで手掛けたチラシを手に企画展をPRする学生たち。水戸市文京